

学生募集要項



2026

令和8年4月入学

令和7年10月入学

[一般入試]

[外国人留学生特別入試]

大学院 総合医薬学研究科

総合医薬学専攻

(博士後期課程・博士課程)

-
- 博士後期課程看護科学プログラム
 - 博士後期課程先端薬科学プログラム
 - 博士課程生命・臨床医学プログラム
 - 博士課程臨床薬学プログラム

令和7年6月

富山大学

不測の事態により、試験日程等本学生募集要項の内容を変更する場合があります。変更する必要がある場合は、本学ウェブサイトでお知らせいたしますので、最新の情報を確認するよう留意してください。

<https://www.u-toyama.ac.jp>

目 次

大学院総合医薬学研究科（博士後期課程・博士課程）入学者選抜の概要	4
I 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	5
II 一般入試	7
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 社会人短期修了制度について	
6 博士後期課程看護科学プログラム入学者選抜方法	
7 博士後期課程先端薬科学プログラム入学者選抜方法	
8 博士課程生命・臨床医学プログラム入学者選抜方法	
9 博士課程臨床薬学プログラム入学者選抜方法	
III 外国人留学生特別入試	16
1 入学者選抜日程の概要	
2 募集人員	
3 出願資格	
4 外部英語試験の利用について	
5 博士後期課程看護科学プログラム入学者選抜方法	
6 博士後期課程先端薬科学プログラム入学者選抜方法	
7 博士課程臨床薬学プログラム入学者選抜方法	
IV 共通事項	22
1 出願手続	
2 受験票の印刷	
3 出願資格認定申請	
4 合格者発表	
5 入学手続	
6 入学志願者の個人情報保護について	
7 出願上の注意事項	
8 安全保障輸出管理について	
9 障害等のある入学志願者の事前相談	
10. 入試情報開示	

- 1 博士後期課程看護科学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧
- 2 博士後期課程先端薬科学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧
- 3 博士課程生命・臨床医学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧
- 4 博士課程臨床薬学プログラム
 - (1) 目的, 学位
 - (2) 授業科目及び単位数
 - (3) 教育方法の特例
 - (4) 課程修了の要件
 - (5) 指導教員研究内容一覧

本研究科博士後期課程看護科学プログラム, 博士後期課程先端薬科学プログラム, 博士課程生命・臨床医学プログラム及び博士課程臨床薬学プログラム(令和8年4月入学)の学生募集は, 2回に分けて実施する予定ですが, 第2回の学生募集は, 第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については, 令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

—社会人の皆様へ—

総合医薬学研究科はリカレント教育として, 社会人を積極的に受け入れます。

なお, 入学試験に関し, 社会人特別入試は実施しませんが, 一般入試は社会人の方も受験しやすい内容となっています。

また, 有職者等が修学する場合, 「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し, 離職することなく修学できるよう特別措置を行います。

大学院総合医薬学研究科（博士後期課程・博士課程）入学者選抜の概要

募集人員

令和8年4月入学

専攻	課程	プログラム名	募 集 人 員	
			一般入試	外国人留学生特別入試
総合 医薬学 専攻	博士 後期	看護科学プログラム	3人	若干名
		先端薬科学プログラム	6人	若干名
	博士	生命・臨床医学プログラム	30人	—
		臨床薬学プログラム	4人	若干名
	合 計		43人	

注 各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

令和7年10月入学

専攻	課程	プログラム名	募 集 人 員	
			一般入試	外国人留学生特別入試
総合 医薬学 専攻	博士 後期	看護科学プログラム	若干名	若干名
		先端薬科学プログラム	若干名	若干名
	博士	生命・臨床医学プログラム	若干名	—
		臨床薬学プログラム	若干名	若干名

入学試験関係日程

事項	総合医薬学専攻 博士後期課程：看護科学プログラム，先端薬科学プログラム 博士課程：生命・臨床医学プログラム，臨床薬学プログラム	
	令和8年4月入学【第1回】 及び令和7年10月入学 一般入試，外国人留学生特別入試	令和8年4月入学【第2回】 一般入試，外国人留学生特別入試
出願資格審査照会期限 (該当者のみ)	令和7年7月3日(木)	令和8年1月9日(金)
出願資格審査結果通知 (該当者のみ)	令和7年7月10日(木)まで	令和8年1月16日(金)まで
出願期間	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)
受験票等発行	令和7年8月6日(水)(予定)	令和8年2月12日(木)(予定)
試験日	令和7年8月22日(金)	令和8年2月20日(金)
合格者発表	令和7年9月2日(火)	令和8年3月6日(金)
入学手続 (締切日)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)	令和8年3月13日(金)(予定)

※第2回の学生募集は、第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

I 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

総合医薬学研究科 入学者受入れの方針

総合医薬学研究科は、本研究科の目的、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、医療系の研究分野についての強い関心と基礎的能力を有し、論理的思考力と創造性を持ち、人と地の健康文化の進展に寄与しようとする意欲を備えている者を受け入れる。

そのため入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供する。

博士後期課程看護科学プログラム 入学者受入れの方針

豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践の改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的とする。この目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。

- (1)看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、一連の研究プロセスを網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。
- (2)看護の現状認識と将来の展望に立って保健医療福祉の課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、看護の高度で専門的職業人として国際的にも信頼・通用する卓越した知識・能力を身に付けている。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また社会人特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績等により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等、看護研究遂行能力を評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績等により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等、看護研究遂行能力を評価する。

博士後期課程先端薬科学プログラム 入学者受入れの方針

将来、薬科学及び学際的領域の最先端研究を遂行する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、医薬看の分野横断的な専門知識と人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、薬科学に関する幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、新たな知見を見いだして課題を解決する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。

- ・薬科学及び学際的領域の最先端で活躍する研究者・教育者・技術者、及び医薬品の開発や普及を担う専門家を志す者。
- ・創薬科学、生命科学に関する専門知識を有する者。
- ・疾病を理解した上で、研究を通じて、薬科学関連領域の諸課題を解決し、分野を先導して人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。
- ・国内外の研究者に対して研究の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力、発信力を持つ者。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価する。

博士課程生命・臨床医学プログラム 入学者受入れの方針

- ・医学・医療の分野における最先端の研究に取り組みたい人材を求める。
- ・医学・医療の教育研究に対する熱意と能力があり、将来の国内外の医療・医学に貢献する意欲のある人材を求める。
- ・他分野の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・医療の分野における最新の研究を志す人材を求める。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

一般学生の他、外国人留学生等の多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、外国語(英語)試験、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制医学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

博士課程臨床薬学プログラム 入学者受入れの方針

将来、臨床薬学を中心とした薬学領域の教育者・研究者、チーム医療を推進する薬剤師、社会的リーダーとして活躍する薬剤師、行政職員、医薬品製造・開発者及び医薬連携の実践や健康医療・公衆衛生科学の開拓を担う専門家としてその分野を先導し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献できる人材を育成することを目的としている。そのためには、医薬看の分野横断的な専門知識と人間尊重の精神を基本とする高い倫理観の下で、臨床薬学を中心とした薬学に関する多様で幅広い学識と高い専門性を備え、それらを統合、応用して創造性の高い研究を遂行し、新たな知見を見いだして課題を解決する能力を身に付けることが必要である。この目的に基づき、本プログラムでは以下のような学生を求める。

- ・地域から国際レベルに至る薬学系諸分野で活躍する高度薬剤師・医療職業人・研究者・教育者・行政職員・医薬品製造・開発者を志す者。
- ・臨床薬学、生命科学および薬学関連領域に関する専門知識を有する者。
- ・最先端の薬学研究を実践して、臨床薬学を中心とした薬学関連領域の諸課題を解決し、人々の健康と学術研究の進歩に貢献したいという意欲を持つ者。
- ・国内外の研究者や医療従事者に対して研究や薬剤師業務の内容やその価値を説明、議論できるコミュニケーション力、表現力を持つ者。

【入学者選抜の基本方針（入試種別とその評価方法）】

多様な学生を受け入れるため、4月入学と10月入学を認め、年2回の入学者選抜を実施する。また外国人留学生特別入試を実施する。

一般入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制薬学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

外国人留学生特別入試

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制薬学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価する。

II 一般入試

1 入学者選抜日程の概要

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
博士後期課程 看護科学プログラム	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和7年 8月22日(金)	令和7年 9月2日(火)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)
博士後期課程 先端薬科学プログラム				
博士課程 生命・臨床医学プログラム				
博士課程 臨床薬学プログラム				

令和8年4月入学（第2回）

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
博士後期課程 看護科学プログラム	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)	令和8年 2月20日(金)	令和8年 3月6日(金)	令和8年3月13日(金)(予定)
博士後期課程 先端薬科学プログラム				
博士課程 生命・臨床医学プログラム				
博士課程 臨床薬学プログラム				

(注) 第2回の学生募集は第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

2 募集人員

プログラム名	令和8年4月入学 募集人員	令和7年10月入学 募集人員	備 考
博士後期課程 看護科学プログラム	3人	若干名	募集人員には外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
博士後期課程 先端薬科学プログラム	6人	若干名	募集人員には外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
博士課程 生命・臨床医学プログラム	30人	若干名	—
博士課程 臨床薬学プログラム	4人	若干名	募集人員には外国人留学生特別入試の募集人員(若干名)を含みます。
計	43人	—	各プログラムの募集人員は、概ねの人数です。

(注) 入学志願者は、出願前に志望する指導教員と教育・研究に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

相談の主な目的は、以下のとおりです。

- ・入学後の研究分野の確認
- ・教育・研究等に関する方向性の確認

なお、相談の内容が入試の可否に直接影響することはありません。

3 出願資格

・博士後期課程

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位（学校教育法第104条第1項の規定に基づき学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
 - (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
 - (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
 - (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
 - (5) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
 - ア 大学を卒業した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達している者
 - (7) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
 - (8) 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- （注）・出願資格(5)、(6)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、30ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

・博士課程

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- (1) 大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者及び入学を希望する月の前月末日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修した者に限る。）及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における18年の課程（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了した者及

び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者

(5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程(医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者

(6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者

(7) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）

① 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者

② 防衛庁設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者

③ 次の各号の一に該当する者で、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

ア 修士課程（理・工学等）を修了した者及び修士の学位の授与（理・工学等）を受けることのできる者

イ 前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者〔学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。〕

ウ 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育法における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、大学院又は専攻科において、当該研究の成果等により、本研究科において認めたもの

(8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院博士課程（修業年限が4年のものに限る。）に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達しているもの

(10) 大学（医学、歯学、修業年限6年の薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）で、その在学期間中に所定の単位を優れた成績をもって修得したものと本研究科において認めた者

（注）・出願資格(1)に該当する者で医学部、歯学部又は薬学部を卒業した者は、医師、歯科医師又は薬剤師の免許を取得することが望ましい。

・出願資格(6)で出願しようとする者は、事前に本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）に問い合わせてください。

・出願資格(7)の「文部科学大臣の指定した者」には、修士課程を修了した者等で大学院において認めた者等があります。詳細については本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）に問い合わせてください。

・出願資格(10)の「文部科学大臣が定める者」には、外国における相当課程を修了した者等があります。詳細については本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）に問い合わせてください。

・出願資格(7)～(10)で出願しようとする者は、事前に「出願資格審査等を行うので、30ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

博士後期課程看護科学プログラムにおいては外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

また、博士後期課程先端薬科学プログラム、博士課程生命・臨床医学プログラム及び博士課程臨床薬学プログラムにおいては、外部英語試験のスコアを提出した者には外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出されたスコアを100点満点に換算した点数を成績とし、外部英語試験のスコアを提出できない者には外国語（英語）の筆記試験を実施します。

複数の試験を受験している場合は、換算点の高いものを提出してください。

外部英語試験の種類は、TOEFL-iBT, TOEFL-ITP, TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP及びIELTSとします。

なお、利用するスコアは令和4年12月1日以降の試験を受験したものに限りです。

※博士課程生命・臨床医学プログラムにおいては令和8年4月入学（第2回）に係る選抜から外国語（英語）の筆記試験を行わず、提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

※入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期（修士）課程を修了見込みの者は提出不要です。

スコアの換算方法

・ TOEFL-iBT

70以上＝100点

70未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$$

・ TOEFL-ITP

525以上＝100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下＝0点

・ TOEIC L&R, TOEIC L&R-IP

730以上＝100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

・ IELTS

6.0以上＝100点

6.0未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{IELTSのスコア}) - 1 \} / 5$$

5 社会人短期修了制度について

(1) 「社会人短期修了制度」の概要

富山大学大学院総合医薬学研究科博士後期課程先端薬科学プログラム、博士課程臨床薬学プログラムでは一定の研究業績を有する社会人を対象として、令和7年4月入学者から社会人短期修了制度*を導入しました。

この制度は、社会人として既に有している研究業績を本学大学院総合医薬学研究科規則に定める「優れた研究業績」と認めることにより、博士後期課程の場合は標準修業年限である3年間で最短で1年間とし、博士課程の場合は標準修業年限である4年間で最短で3年間とし、それぞれ博士（薬科学）又は博士（薬学）の学位取得を目指します。

※ 本制度に係る入学試験は一般入試の枠内で実施します。

ただし、入学試験の結果、社会人短期修了制度ではなく、通常の博士後期課程（標準修業年限3年）又は博士課程（標準修業年限4年）での合格となる場合があります。

(2) 出願要件及び出願手続

本制度は博士後期課程先端薬科学プログラム及び博士課程臨床薬学プログラムに設けられた特別な制度です。一般入試の博士後期課程先端薬科学プログラム又は博士課程臨床薬学プログラムの出願資格に加えて、本制度の出願要件を満たす必要があります。

ただし、出願要件を満たしたとしても、社会人短期修了制度の合格を保証するものではありませんのでご注意ください。

〔出願要件〕

次の各号のいずれかの要件を満たし、かつ、出願前に志望する分野の指導教員と教育・研究等に関する方向性等について事前相談を行い、志望する分野の指導教員の承認を得られた者。

1. 学位申請者が筆頭著者（第一著者と同等の寄与があると明記されていることを含む。）となり学術雑誌に掲載又は掲載が確定（accepted）された学位論文の基礎となる学術論文が2編以上。

※第一著者と同等の寄与があると明記された掲載（予定）論文については、学術論文のうち1編に限り、第一著者として取り扱う。

2. 学位申請者が筆頭著者（第一著者と同等の寄与があると明記されていることを含む。）となりインパクトファクター（以下「IF」という。）5以上のジャーナルに掲載又は掲載が確定（accepted）された学位論文の基礎となる学術論文が1編以上。

なお、IFはジャーナル投稿時で最新のものとする。

3. 学位申請者が筆頭著者（第一著者と同等の寄与があると明記されていることを含む。）となりサイトスコアパーセンタイルが90%以上である学術雑誌に掲載又は掲載が確定（accepted）された学位論文の基礎となる学術論文が1編以上。

なお、サイトスコアパーセンタイルはジャーナル投稿時で最新のものとする。

なお、「学術論文」は富山大学における学術論文の定義（富山大学役員会決定）を満たし、かつ博士後期課程先端薬科学プログラムの場合は修士課程又は博士前期課程修了後に社会人として実施した研究に基づいたもの、博士課程臨床薬学プログラムの場合は6年制の学部を卒業後に社会人として実施した研究に基づいたもので、学術雑誌に掲載又は掲載が確定（accepted）されたものに限ります。

(<https://www.u-toyama.ac.jp/collaboration/treatise-definition/>)

出願手続（出願期間等）については一般入試と同じです。

また、詳しい出願書類等については、27ページを参照してください。

6 博士後期課程看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（10ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績等により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等、看護研究遂行能力を評価します。

入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期（修士）課程看護科学プログラムを修了見込みの者については、小論文・適性検査を課しません。

(1) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(2) 口述試験

・修士論文またはこれに相当する論文に関するプレゼンテーションの後、修士論文、専門分野における教育・実践活動の実績、研究能力等に関し個別面接を行います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日（金）	11：00～12：00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13：30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日（金）	11：00～12：00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13：30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

7 博士後期課程先端薬科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験(10ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照)、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価します。

入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期課程先端薬科学プログラム（修士課程基礎薬学プログラム）を修了見込みの者については、外国語（英語）及び小論文・適性検査を課しません。

(1) 外国語（英語）

外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(3) 口述試験

・修士論文及びこれに関連する研究論文又は業務経験について行います。

(4) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

8 博士課程生命・臨床医学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、外国語（英語）試験（10ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制医学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1) 外国語（英語）

※1 令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学に係る選抜まで実施し、それ以後は筆記試験を行わず、外部英語試験の利用のみとします。

外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2) 口述試験

・志望する専攻・教育分野について行います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	9:30～11:00	外国語（英語）※1	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:00～	口述試験 ※2	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	13:00～	口述試験 ※2	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス

※2 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

9 博士課程臨床薬学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（10ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制薬学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1)外国語（英語）

外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2)小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(3)口述試験

・卒業論文及びこれに関連する研究論文その他を問います。

(4)試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

Ⅲ 外国人留学生特別入試

1 入学者選抜日程の概要

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
博士後期課程 看護科学プログラム	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)	令和7年 8月22日(金)	令和7年 9月2日(火)	(令和7年10月入学) 令和7年9月12日(金) (令和8年4月入学) 令和8年1月21日(水)(予定)
博士後期課程 先端薬科学プログラム				
博士課程 臨床薬学プログラム				

令和8年4月入学（第2回）

プログラム	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続(締切日)
博士後期課程 看護科学プログラム	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)	令和8年 2月20日(金)	令和8年 3月6日(金)	令和8年3月13日(金)(予定)
博士後期課程 先端薬科学プログラム				
博士課程 臨床薬学プログラム				

(注) 第2回の学生募集は第1回の学生募集の定員充足状況により実施しない場合があります。実施の有無については、令和7年11月頃に本学ウェブサイトで公表します。

2 募集人員

プログラム名	募集人員	備 考
博士後期課程 看護科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
博士後期課程 先端薬科学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。
博士課程 臨床薬学プログラム	若干名	募集人員は一般入試の募集人員に含みます。

(注) 入学志願者は、出願前に志望する指導教員と教育・研究に関する方向性等について、必ず相談してください。志望する指導教員が未定の場合は出願できません。

相談の主な目的は、以下のとおりです。

- ・入学後の研究分野の確認
- ・教育・研究等に関する方向性の確認

なお、相談の内容が入試の可否に直接影響することはありません。

3 出願資格

・博士後期課程

外国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者とします。

看護科学プログラムにおいては、日本語で日常会話ができる者とします。

(1) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者

(2) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達しているもの

(注) 出願資格(2)で出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行うので、30ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

・博士課程

外国籍を有する者で、次の各号のいずれかに該当する者とします。

(1) 外国において、学校教育における18年の課程（医学、歯学又は修業年限6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程に限る。）を修了した者及び入学を希望する月の前月末日までに修了見込みの者

(2) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び入学を希望する月の前月末日までに授与される見込みの者

(3) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学又は修業年限6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時に24歳に達しているもの

(4) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院博士課程（修業年限が4年のものに限る。）に入学した者であって、その後に入学者を本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると本研究科において認めたもの

(注) 上記(3)、(4)で出願しようとする者には、事前に出願資格審査等を行うので、30ページ「3 出願資格認定申請」を参照し、所定の手続きを行ってください。

4 外部英語試験の利用について

博士後期課程看護科学プログラムにおいては外国語（英語）の筆記試験を行わず，提出された外部英語試験のスコアを100点満点に換算した点数を成績とします。

また，博士後期課程先端薬科学プログラム，博士課程臨床薬学プログラムにおいては，外部英語試験のスコアを提出した者には外国語(英語)の筆記試験を行わず，提出されたスコアを100点満点に換算した点数を成績とし，外部英語試験のスコアを提出できない者には外国語(英語)の筆記試験を実施します。

複数の試験を受験している場合は，換算点の高いものを提出してください。

外部英語試験の種類は，TOEFL-iBT，TOEFL-ITP，TOEIC L&R，TOEIC L&R-IP及びIELTSとします。

なお，利用するスコアは令和4年12月1日以降の試験を受験したものに限りします。

※看護科学プログラムのみ受験日の制限はありません。

※入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期（修士）課程を修了見込みの者は提出不要です。

スコアの換算方法

- ・ TOEFL-iBT

70以上＝100点

70未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEFL-iBTのスコア}) / 70$$

- ・ TOEFL-ITP

525以上＝100点

525未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{TOEFL-ITPのスコア}) - 310 \} / 215$$

310以下＝0点

- ・ TOEIC L&R， TOEIC L&R-IP

730以上＝100点

730未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times (\text{TOEICのスコア}) / 730$$

- ・ IELTS

6.0以上＝100点

6.0未満の場合

$$\text{換算点} = 100 \times \{ (\text{IELTSのスコア}) - 1 \} / 5$$

5 博士後期課程看護科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（18ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績等により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等、看護研究遂行能力を評価します。

入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期（修士）課程看護科学プログラムを修了見込みの者については、小論文・適性検査を課しません。

(1) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(2) 口述試験

・修士論文またはこれに相当する論文に関するプレゼンテーションの後、修士論文、専門分野における教育・実践活動の実績、研究能力等に関し個別面接を行います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	11:00～12:00	小論文・適性検査	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

6 博士後期課程先端薬科学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験(18ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照)、口述試験及び成績証明書の成績により、大学院修士課程修了相当の学力、意欲、能力等について評価します。

入学を希望する月の前月に本学大学院総合医薬学研究科博士前期課程先端薬科学プログラム（修士課程基礎薬学プログラム）を修了見込みの者については、外国語（英語）及び小論文・適性検査を課しません。

(1) 外国語（英語）

外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2) 小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(3) 口述試験

・修士論文及びこれに関連する研究論文又は業務経験について行います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

7 博士課程臨床薬学プログラム入学者選抜方法

入学者の選抜は、小論文・適性検査、外国語（英語）試験（18ページ「4 外部英語試験の利用について」を参照。）、口述試験及び成績証明書の成績により、6年制薬学部卒業相当の学力、意欲、能力等について評価します。

(1)外国語（英語）

外部英語試験を利用する場合、外国語(英語)の筆記試験は課しません。

(2)小論文・適性検査

・適性検査として志望する分野に関する知識を問います。

(3)口述試験

・卒業論文及びこれに関連する研究論文その他を問います。

(3) 試験日程及び試験場

令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和7年 8月22日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

令和8年4月入学（第2回）

月 日（曜）	時 間	試験科目等	試験場
令和8年 2月20日(金)	9:30～10:30	外国語（英語）	富山市杉谷2630番地 富山大学 杉谷（医薬系）キャンパス
	11:00～12:00	小論文・適性検査	
	13:30～	口述試験 ※	

※ 口述試験の開始時間については、志願者数によって変更することがあります。変更する場合は、受験票を発行する際にお知らせします。

Ⅳ 共 通 事 項

1 出願手続

出願はインターネット出願のみとします。出願手続は、インターネット出願サイトでの出願登録及び検定料の支払いを行った後、出願期間内に必要な書類等を提出することにより完了します。以下の「インターネット出願の流れ」をよく読み、手続きを行ってください。

インターネット出願の流れ



事前準備

26 ページを参照してください。

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。
スマートフォン、タブレットをご利用の場合各OSの標準ブラウザが推奨環境となります。
(iOS 12 以上、Android OS 8 以上、iPadOS 13 以上)

必要書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、
出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…各種証明書、写真など



インターネット出願サイトにアクセス

インターネット
出 願 サイト ▶

<https://e-apply.jp/ds/toyama-gs/>

または、

大学ウェブサイト ▶

<https://www.u-toyama.ac.jp/>

からアクセス



出願はインターネット出願サイトでの登録完了後(STEP2)、検定料を支払い(STEP3)、必要書類を印刷・郵送(STEP4、STEP5)して完了となります。登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願書類は出願期間最終日17時必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

1

マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。

なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP2に進んでください。



①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメール
を受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で
届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ
をクリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中のみ、**出願手続きを行う** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをクリックしてください。

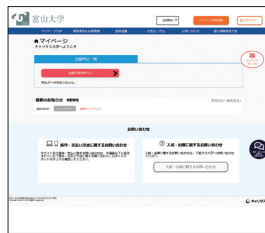
STEP

2



出願内容の登録

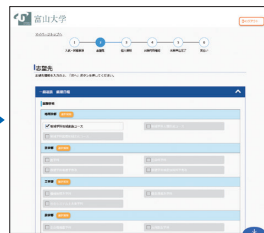
画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



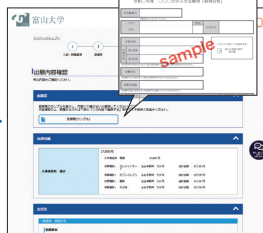
③志望研究科等の選択



④顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力



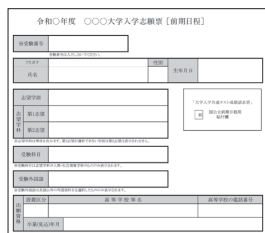
⑥出願内容の確認
志願票(サンプル) ボタンを
クリックすると志願票が確認できます。



⑦申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
(イメージ)

※検定料納入後に出力可能となります。

出願受付番号
メモ(12桁)

検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号
メモ(13桁)

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済
番号メモ(11桁)

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号
メモ(11桁)

確認番号
メモ(6桁)

収納機関番号
(5桁) **5 8 0 2 1** ※収納機関番号は、ペイジーで
お支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで、修正が可能です。

※「検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP

3



検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA、Master、JCB、AMERICAN EXPRESS、MUFGカード、DCカード、UFJカード、NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願登録内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されている必要があります

ウェブで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願登録内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機

あなたも、コンビニに、
FamilyMart



4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

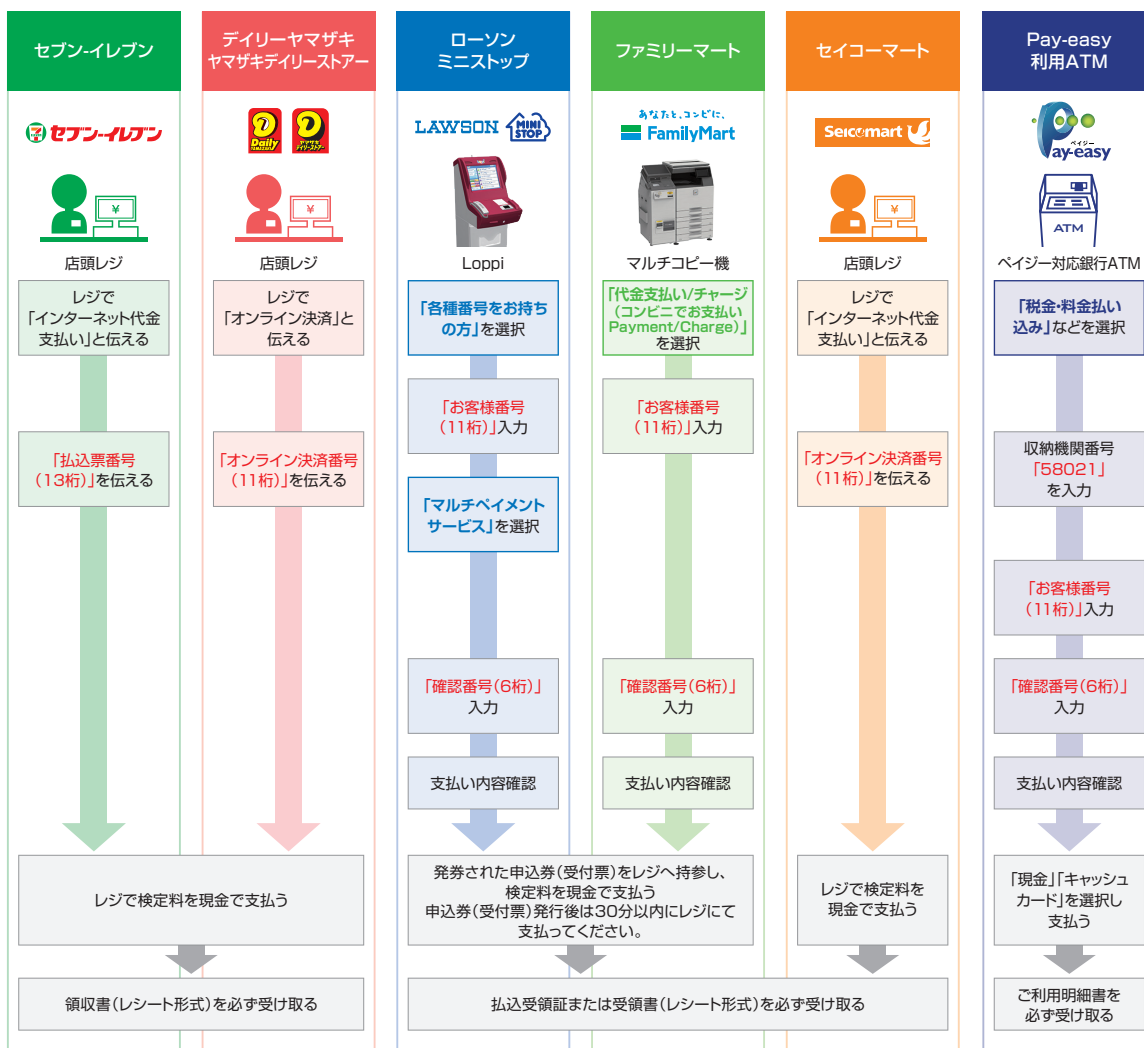
出願登録内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、
内容を確認してから検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア



必要書類の印刷

4

「出願内容の確認／志願票の印刷」ボタンからログインし、
志願票等必要書類を**A4用紙にカラー印刷**
してください。

[illegible]

志願票PDF(イメージ)



STEP

5

出願書類の郵送

登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

出願に必要な書類を出願期間内に郵便局窓口から「書留速達郵便」で郵送してください。

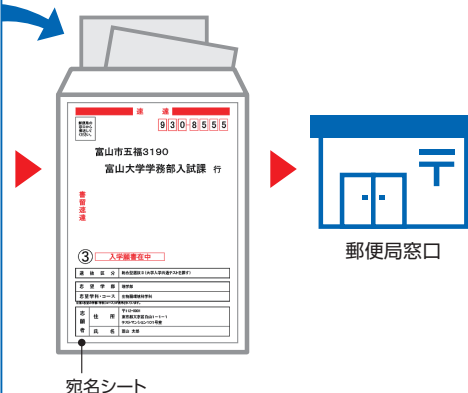
■出願書類

1回の出願登録につき各1部必要です。

出願に必要な書類は、本学生募集要項の 27～29 ページを参照して準備してください。

<出願書類到着期限>

27ページを参照してください。



出願書類の郵送先は宛名シートに自動で印字されます。

宛名シートを市販の角形2号封筒(240mm×332mm)に貼り付けてください。

※一旦受理した検定料・出願書類は、募集要項で明記している理由によるものを除き一切返却しません。

〈出願完了〉

※受理についての電話等による問い合わせには一切応じません。

STEP

6

受験票の印刷

29 ページを参照してください。

受験票等発行日以降に、インターネット出願サイトから受験票が印刷できるようになります。「受験票の印刷」ボタンからログインし、印刷してください。

受験票は必ずA4用紙にカラー印刷して、試験当日に持参してください。



(1)事前準備

書類等	摘 要
利用環境	PC利用時推奨ブラウザ ・ Microsoft Edge 最新版 ・ Google Chrome 最新版 ・ Mozilla Firefox 最新版 ・ Apple Safari 最新版 ※ ブラウザのタブ機能を使用して、複数のタブで同時に申込操作を行いますと、選択した内容が他のタブに引き継がれてしまう等の不具合が発生する場合がございます。複数タブでの同時申込操作はお控えください。 前画面へ戻る場合はブラウザの「戻る」ボタンは利用せず、画面内に表示されている「戻る」ボタンをご利用ください。 スマートフォン、タブレット利用時推奨ブラウザ・OS ・ iOS 12 以上 ・ Android OS 8 以上 ・ iPadOS 13 以上 ※ 各OSの標準ブラウザが推奨環境となります。 ※ お使いのブラウザで表示が崩れることがございましたら、他のブラウザにてご確認ください。 ※ Androidのスマートフォンからの操作でChromeのPC版からはPDFの表示ができない場合がありますので、モバイル版をご利用ください。
PDF表示・印刷ソフトウェア	入学志願票(PDF)の表示・印刷にはアドビシステムズ社が配布している Adobe Acrobat Reader（無償）が必要です。
メールアドレス	出願にはメールアドレスが必要となりますので、事前にメールアドレスを用意してください。 なお、ドメイン指定受信を設定されている方は、次のドメインからのメールを受信できるように設定を追加してください。 @e-apply.jp スマートフォン・携帯電話の通信会社から発行されるメールアドレスを登録される方は、各通信会社の迷惑メールフィルターの解除方法に従って、@e-apply.jpからのメールが届くように設定してください。
本人写真	出願にあたって顔写真データ（ファイル形式（jpeg,jpg,png,bmp）、最大10 MBまで）を用意してください。 写真の大きさは縦4：横3の比率を推奨します。 写真は本人確認に使用します。 出願前3ヶ月以内に撮影した正面、上半身、無帽、背景なしの写真データ（カラー）を用意してください。 【使用できない写真の例】 不鮮明（ぼやけている、影がある）、無背景でない（背景に風景が写っている、背景に模様がある）、化粧や前髪が目にかかるなど本人確認が困難、写真に加工を施している、現像された写真を再撮影しているなど
プリンター	入学志願票及び受験票（PDF）を出力するため、A4普通紙に印刷することができるカラープリンターが必要です。 印刷用紙(普通紙・PPC用紙・OA共通用紙・コピー用紙等)とともに用意してください。
角2封筒	入学志願票等の出願書類を提出するため、市販の角形2号封筒（240 mm×332 mm）を用意してください。入学志願票を印刷した際に出力される「宛名シート」を封筒に貼り付けて使用してください。

(2)出願期間

試 験 区 分		出願期間
令和7年10月入学	一般入試 外国人留学生特別入試	令和7年7月11日(金) ～7月18日(金)17時(必着)
令和8年4月入学(第1回)	一般入試 外国人留学生特別入試	
令和8年4月入学(第2回)	一般入試 外国人留学生特別入試	令和8年1月19日(月) ～1月26日(月)17時(必着)

インターネット出願の登録と検定料の納入は、それぞれの出願期間初日の9時から可能です。持参する場合は、出願期間中の平日の9時から17時までの間、受け付けます。

なお、郵送の場合も出願締切日17時までに必着とします。ただし、出願締切日の前日以前の消印（日本国内の郵便の消印に限る。）のある書留速達郵便に限り、出願期間以降に到着した場合でも受理します。

(3) 検定料

30,000円

検定料の支払いは、23ページのSTEP2の出願内容の登録完了後に行います。本学の「インターネット出願サイト（<https://e-apply.jp/ds/toyama-gs/>）」から出願し、志願者登録完了後、検定料決済を行ってください。検定料の支払方法は、24ページのSTEP3の検定料の支払いにより確認してください。検定料支払い後に、入学志願票を印刷することが可能になります。

なお、検定料の支払いには、別途手数料が必要です。手数料は支払人負担となります。

ただし、本学の各研究科・学環の修士課程又は博士前期課程に在学中の者で、引き続き本研究科の博士後期課程又は博士課程に進学しようとする場合は「検定料」の納付は必要ありません。また、災害による被災者に対して検定料免除の制度があります。詳細は本学のウェブサイトを参照してください。

一旦、受理した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

① 検定料の返還請求ができる場合及び返還額

ア 検定料を払い込んだが富山大学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合〔返還額〕30,000円

イ 検定料を二重に払い込んだ場合〔返還額〕30,000円

ウ 検定料を多く払い込んだ場合〔返還額〕多く払い込んだ額

ただし、返還時の振込手数料は、受取人負担とします。

② 返還請求の方法

別添の「検定料返還請求書」に必要事項を記入し、本学へ郵送してください。

送付先：〒930-8555 富山市五福3190番地 富山大学財務施設部経理第一課 電話(076) 445-6053

(4) 出願書類等

志願者は、出願書類を「宛名シート」を貼付した封筒に入れ提出してください。郵送の場合は書留速達郵便（国外から郵送する場合は、EMS等追跡可能な手段）としてください。出願書類の送付は、24ページのSTEP3の検定料の支払いが完了した後に行います。

①インターネット出願サイトから印刷する書類

書 類 等	摘 要
1 入 学 志 願 票	インターネット出願サイトから A4サイズでカラー印刷 してください。 検定料の支払い後に、印刷が可能となります。
2 宛 名 シ ー ト	インターネット出願サイトから A4サイズでカラー印刷 してください。 市販の角形2号封筒（240mm×332mm）に剥がれないように貼付してください。
3 誓 約 書	インターネット出願サイトから A4サイズで印刷 してください。 「8 安全保障輸出管理について」（31ページ）を参照してください。

印字されている内容に誤りがないか必ず確認してください。

②志願者が準備する書類

書 類 等		摘 要
1	修了（見込）証明書 （博士後期課程志願者のみ）	出身大学（研究科）長が作成したもの （本学修士課程及び博士前期課程出身者は不要）
2	卒業（見込）証明書 （博士課程志願者のみ）	出身大学（学部）長が作成したもの（本学出身者は不要）
3	出身大学院の成績証明書 （博士後期課程志願者のみ）	出身大学（研究科）長が作成し厳封したもの ただし、偽造・複写防止用紙使用の場合は厳封不要です。
4	出身大学学部の成績証明書	出身大学（学部）長が作成し厳封したもの ただし、偽造・複写防止用紙使用の場合は厳封不要です。
5	修士論文又は これにかわるもの （博士後期課程志願者）	1 部 （出願資格認定申請による出願者は「研究論文一覧表（学会発表を含む。）」（本学所定の様式）をこれにかえて提出することもできます。）
6	上記論文等の要旨 （博士後期課程志願者）	2 部 A 4 判，上質紙 1 ページ以内（図表等を添付する場合は別ページとし，全体で 2 ページ以内）とし，論文題目，氏名を明記してください。本文は，11ポイント以上の文字サイズで，上下左右20mm以上の余白をとることとします。 （出願資格認定申請による出願者は，「研究及び業務内容の概要（A 4 判で2,000字程度にまとめたもの）」をこれにかえて提出することもできます。）
7	卒業論文又は これにかわるもの （博士課程臨床薬学プログラム 志願者）	1 部 （出願資格認定申請による出願者は「研究論文一覧表（学会発表を含む。）」（本学所定の様式）をこれにかえて提出することもできます。）
8	上記論文等の要旨 （博士課程臨床薬学プログラム 志願者）	2 部 A 4 判，上質紙 1 ページ以内（図表等を添付する場合は別ページとし，全体で 2 ページ以内）とし，論文題目，氏名を明記してください。本文は，11ポイント以上の文字サイズで，上下左右20mm以上の余白をとることとします。 （出願資格認定申請による出願者は，「研究及び業務内容の概要（A 4 判で2,000字程度にまとめたもの）」をこれにかえて提出することもできます。）
9	受験承認書	他の大学院等に在学中の者又は官公庁，企業等に在職中の者は，当該大学院研究科長又は所属長の受験承認書を添付してください。（様式任意）
10	住民票の写し等 （外国人のみ）	現に日本国に在住している外国人は，居住している市町村長又は特別区長の交付する住民票の写し又は在留カードの写し（両面）を添付してください。

11	TOEFL / TOEIC / IELTSの スコアシート（写し） （外部英語試験を利用して出願 する者のみ）	下記の試験のいずれか1つのスコアシートの写しを提出してください。 また、出願時にスコアシートが提出できない場合は、下記の試験を受験したこと又は受験予定であることが確認できる書類（受験票の写し等）を提出した上で入学試験当日までにスコアシートの写しを提出してください。 ①TOEFL-iBT 受験者用控えスコアレポート ②TOEFL-ITP スコアレポート ③TOEIC L&R 公式認定証（Official Score Certificate） ④TOEIC L&R-IP スコアレポート ⑤IELTS 成績証明書（Test Report Form-TRF） なお、スコアシートは令和4年12月1日以降の試験を受験したものに限りません。※看護科学プログラムを除きます。 試験当日に原本確認を行うため、必ず持参してください。
12	社会人短期修了の申請要件を 証明する資料 （社会人短期修了志願者）	・申請要件を満たす学術論文（写でも可） ・申請要件を満たす学術論文の要旨（本学所定の様式）

（注）（1）本学所定の様式は本学ウェブサイトよりダウンロードし、A4サイズに印刷してください。

（2）英語以外の外国語で記載されたものについては、日本語訳又は英語訳を添付してください。

2 受験票の印刷

- （1）受験票は、志願者が郵送した出願書類を本学が受理した後、受験票等発行日以降に、インターネット出願サイト上で印刷ができるようになります。なお、受験票の印刷が可能になりましたら、インターネット出願時に登録した志願者のメールアドレスへ通知します。

受験票等発行日（注）

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】令和7年8月6日（水）15時（予定）

【令和8年4月入学（第2回）】令和8年2月12日（木）15時（予定）

（注）受験票等発行日は予定のため、変更になる可能性があります。

- （2）インターネット出願サイトの「ログイン」からマイページにログインします。ログインするためには【メールアドレス・ご自身で設定したパスワード】が必要になります。
- （3）ログイン後、受験票をダウンロードしてください。受験票は、A4用紙にカラー印刷して、必ず試験当日に持参してください。なお、別途受験上の注意事項をメールで通知しますので、必ず事前に熟読してください。

注意事項

- （1）受験票を印刷後、記載内容を必ず確認してください。出願登録した内容と異なっている場合は、入試に関する問い合わせ先（杉谷地区事務部学務課）へ速やかに連絡してください。
- また、パソコン等の画面上の受験番号と、実際に印刷された受験票の受験番号が、一致していることを必ず確認してください。
- （2）メールが届かない場合でも、インターネット出願サイトにログインして受験票を印刷してください。
- （3）インターネット出願登録した際の受付番号は、受験番号ではありません。試験当日は受付番号での受験はできませんので、必ず受験票を持参してください。
- （4）試験当日に、スマートフォン等での画面表示による受験票の提示は認めません。必ず印刷した受験票を持

参し、試験終了後も大切に保管してください。

3 出願資格認定申請

一般入試の博士後期課程出願資格(5)、(6)、博士課程出願資格(7)～(10)及び外国人留学生特別入試の博士後期課程出願資格(2)、博士課程出願資格(3)、(4)により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を行います。必ず事前に下記に照会を行い、期日までに所定の書類を提出してください。

【照会・提出先】

富山大学 杉谷地区事務部学務課（入試担当）

〒930-0194 富山市杉谷2630番地 電話 (076) 434-7658

(1) 出願資格審査に必要とする書類

- ① 出願資格審査申請書（本学所定の様式）
- ② 履歴書（本学所定の様式）
- ③ 最終学校の成績証明書、卒業証明書
- ④ 研究及び業務内容の概要
- ⑤ 研究論文一覧表（学会発表を含む。）（本学所定の様式）
- ⑥ 長形3号の返信用封筒（410円分の切手を貼付し、あて名、郵便番号を明記したもの）
- ⑦ 住民票の写し（現に日本国に在住している外国人志願者のみ）

※各証明書は、原本を提出してください。写しが提出された場合は受理しません。外国語で記載されたものについては、日本語訳を添付してください。

(2) 書類提出期限

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年7月3日（木）16時まで

【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年1月9日（金）16時まで

原則、申請書類は郵送とし、上記期限までに必着とします。

やむを得ず持参する場合は、平日の9時から16時まで受け付けます。期限後の提出は受理しません。

(3) 審査結果の通知

事前審査の結果は、次の期日までに本人宛に通知書を発送します。

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年7月10日（木）

【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年1月16日（金）

4 合格者発表

次の日時に合格者の受験番号を富山大学ウェブサイトに掲載するとともに、本人に合格通知書を郵送します。なお、電話、E-mail等による可否の問合せには、一切応じません。

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年9月2日（火）15時

【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年3月6日（金）15時

5 入学手続

入学手続は、次のとおりですが、詳細については合格者に通知します。

- (1) 入学手続 【令和7年10月入学】 令和7年9月12日（金）
 【令和8年4月入学（第1回）】 令和8年1月21日（水）（予定）
 【令和8年4月入学（第2回）】 令和8年3月13日（金）（予定）

(2) 入学手続に必要な経費等

ア 入学料 282,000円（予定額）

ただし、本学の各研究科・学環の修士課程又は博士前期課程を修了し、引き続き本研究科の博士後期課程又は博士課程に進学する場合は、入学料の納付は必要ありません。

(注) ① 上記の入学料は予定額であり、入学時に入学料が改定された場合は、改定時から新たな入学料が適用されます。

② 納付された入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

イ その他

① 入学料の納付が困難と認められる場合には、選考の上、免除・徴収猶予されることがあります。

② 授業料については、入学後に納付することとなります。なお、納付金額・納付方法については入学手続き時に案内します。

＜参考＞令和7年度授業料 年額535,800円

③ 独立行政法人日本学生支援機構の奨学金制度があります。

④ 学生教育研究災害傷害保険制度等の経費が別途必要です。

(3) 注意事項

入学手続き期間内に入学手続きを完了しない者は、入学を辞退したものとして取り扱います。

6 入学志願者の個人情報保護について

本学が保有する個人情報については、「個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人富山大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。

(1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他個人情報については、①入学者選抜（出願処理、選抜実施）、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

(2) 出願にあたって知り得た個人情報は、本学入学手続完了者についてのみ、入学前における準備教育及び入学後における①教務関係（学籍、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、授業料免除、奨学金申請、就職支援等）、③授業料徴収に関する業務、④統計調査及び分析を行うために利用します。

(3) 本学合格者についての受験番号、氏名及び住所に限り、課外活動団体並びに本学の関係団体である同窓会、後援会及び生活協同組合からの連絡を行うために利用する場合があります。

注 上記団体からの連絡を希望しない場合は、本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）にその旨申し出てください。

(4) 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者（以下「受託業者」という。）において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部または一部を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

7 出願上の注意事項

(1) 志願者本人が作成する書類において、ChatGPT等の生成AIを利用することは禁止します。

(2) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。

(3) 受理された出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。

(4) 入学許可の後においても、提出書類の記載と相違する事実が発見された場合は、入学を取り消すことがあります。

(5) 出願に関する事項その他についての問合せは、下記あてに照会してください。

富山大学 杉谷地区事務部学務課(入試担当) 〒930-0194 富山市杉谷2630番地

電話 (076) 434-7658

8 安全保障輸出管理について

富山大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」を定めて、技術の提供、貨物の輸出の観点から、安全保障輸出管理について厳格な審査を行っています。規制されている事項に該当する場合は、入学を許可できない場合や希望する教育が受けられない、希望する研究活動に制限がかかる場合がありますので、出願にあたっては注意してください。

【参考】「国立大学法人富山大学安全保障輸出管理規則」

URL <http://www3.u-toyama.ac.jp/soumu/kisoku/pdf/0110401.pdf>

9 障害等のある入学志願者の事前相談

障害等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、怪我、発達障害等）があつて、受験上及び修学上特別な配慮を希望する入学志願者は、出願に先立ち、本学杉谷地区事務部学務課へ事前相談を行ってください。

なお、必要に応じて、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

※事前相談の申請を行った場合でも、本学への出願が義務付けられるわけではありません。

(1) 相談期限

【令和8年4月入学（第1回）・令和7年10月入学】 令和7年6月26日（木）16時まで

【令和8年4月入学（第2回）】 令和7年12月26日（金）16時まで

(2) 相談方法

本学ウェブサイトから事前相談申請書をダウンロードするか、下記事項を記載した申請書を作成し、医師の診断書（写しでも可）等を添え、本学杉谷地区事務部学務課（入試担当）へ提出してください。

① 氏名・性別・生年月日・住所・電話番号・メールアドレス

② 志望のプログラム・受験する入試区分

③ 障害等の種類・程度

④ 受験の際に特別な配慮を希望する事項

⑤ 修学の際に特別な配慮を希望する事項

⑥ 出身大学等であつていた措置（担任教員の所見のあるもの）

⑦ 日常生活の状況

⑧ その他参考となる事項（相談する際の参考資料があれば、併せて提出してください。例：身体障害者手帳の写し等）

（参考）事前相談申請書掲載ページ

（本学トップページ）→「入試情報」→「障害等のある入学志願者の事前相談」

(3) 相談先

富山大学 杉谷地区事務部学務課（入試担当）

〒930-0194 富山市杉谷2630番地 電話（076）434-7658

FAX（076）434-4545

（注）日常生活で使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を、受験時に使用したい場合も、試験場設定等において配慮が必要となる場合がありますので、必ず事前に相談してください。

事前相談は、障害等のある入学志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害等のある方の受験や修学を制限するものではありません。

（参考）国立大学法人富山大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領

（本学トップページ）→「大学紹介」→「情報公開」→「大学運営に関する情報」を確認してください。

10 入試情報開示

大学院総合医薬学研究科（博士後期課程・博士課程）に係る合否判定基準及び出題意図・解答例等については以下のとおりです。

(1) 合否判定基準

・博士後期課程看護科学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点で6割以上を合格ラインの目途とする。

② 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点で6割以上を合格ラインの目途とする。

なお，外国語（英語）試験の得点が0点の場合は，不合格とする。

・博士後期課程先端薬科学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点中150点以上を合格とする。

② 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点中150点以上を合格とする。

なお，外国語（英語）試験の得点が50点未満の場合は，不合格とする。

・博士課程生命・臨床医学プログラム

① 一般入試

外国語（英語）試験と口述試験等の評価に基づき判定する。

なお，外国語（英語）試験100点満点のうち，得点が6割に満たない場合は，不合格とする。

・博士課程臨床薬学プログラム

① 一般入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点中150点以上を合格とする。

② 外国人留学生特別入試

小論文・適性検査100点，外国語（英語）試験100点，口述試験等100点とし，合計300点満点中150点以上を合格とする。

なお，外国語（英語）試験の得点が50点未満の場合は，不合格とする。

(2) 出題意図・解答例等

① 小論文・適性検査：出題意図・解答例等を公表する。

② 外国語（英語）：出題意図・解答例等を公表する。

③ 口述試験：出題意図を公表する。

(3) その他

① 出題意図・解答例等は本研究科ウェブサイトにより公表する。

② 入学試験の成績開示は行わない。

V 大学院総合医薬学研究科の概要

総合医薬学研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的としています。

この目的に基づいて、博士課程・博士後期課程においては、医薬看の分野横断的な専門知識と研究倫理を学び、また医学、薬学及び看護学における豊かな専門知識及び普遍的知識・技能、さらに他の教育研究分野と幅広い学問の基盤的能力を修得し、高度の専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出す能力を身に付け、総合医薬学研究科が示す学修成果を上げた者に博士の学位を授与します。

なお、令和4年度に改組した全ての研究科及び学環は、4学期制(クォーター制)を採用し、授業科目は、原則として1つのタームを単位として開講します。また、1タームは8週間です。

2学期制と4学期制(クォーター制)の比較表

	学期等の名称			
2学期制	前学期		後学期	
4学期制(クォーター制)	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム

各プログラムの概要

1 博士後期課程看護科学プログラム

(1) 目的、学位

博士後期課程看護科学プログラムは、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的とします。

博士後期課程看護科学プログラムを修了した者には、博士（看護学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は、原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限 8 : 45～10 : 15	II 限 10 : 30～12 : 00	III 限 13 : 00～14 : 30
IV 限 14 : 45～16 : 15	V 限 16 : 30～18 : 00	
VI 限 18 : 10～19 : 40	VII 限 19 : 50～21 : 20	

(4) 課程修了の要件

原則として、3年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について22単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文審査及び最終試験に合格することとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－1のとおり

2 博士後期課程先端薬科学プログラム

(1) 目的、学位

博士後期課程先端薬科学プログラムでは、薬科学領域の広範かつ先端的な知識や高い専門性ととともに、患者の病気や立場を理解できる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、薬科学及び学際的領域で先導的に活躍できる研究者・教育者・技術者・専門家を育成することを目的とします。

博士後期課程先端薬科学プログラムを修了した者には、博士（薬科学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限 8：45～10：15	II 限 10：30～12：00	III 限 13：00～14：30
IV 限 14：45～16：15	V 限 16：30～18：00	
VI 限 18：10～19：40	VII 限 19：50～21：20	

(4) 課程修了の要件

原則として3年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文審査及び最終試験に合格することとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－2のとおり

3 博士課程生命・臨床医学プログラム

(1) 目的、学位

博士課程生命・臨床医学プログラムでは、疾病の原因の解明及び治療・予防法に関して基礎・臨床の両面から総合的に教育研究を行い、基礎研究のみならず、臨床応用の橋渡しとなるトランスレーショナルリサーチの展開を行える人材を育成する。また、医学／薬学／看護学の連携を理解した世界の医学・医療をリードできる複眼的人材を育成することを目的とします。

博士課程生命・臨床医学プログラムを修了した者には、博士（医学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限	8：45～10：15	II 限	10：30～12：00	III 限	13：00～14：30
IV 限	14：45～16：15	V 限	16：30～18：00		
VI 限	18：10～19：40	VII 限	19：50～21：20		

(4) 課程修了の要件

原則として、4年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文審査及び最終試験に合格することとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－3のとおり

3 博士課程臨床薬学プログラム

(1) 目的、学位

博士課程臨床薬学プログラムでは、臨床薬学領域の幅広い知識や高い専門性とともに、疾病を深く理解し患者に寄り添うことのできる医学的素養を教授することで、人間尊重の精神を基本とする高い倫理観と、人々の健康と学術研究の進歩という、高度な社会的要請に応えるための創造力、判断力、課題解決力、発信力を兼ね備え、臨床薬学領域で先導的に活躍できる教育者・研究者・高度職業人・専門家を育成することを目的とします。

博士課程臨床薬学プログラムを修了した者には、博士（薬学）の学位を授与します。

(2) 授業科目及び単位数（令和7年4月現在）

別表Ⅰのとおり

(3) 教育方法の特例

「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」を適用し、有職者が離職することなく就学できるよう特別措置を行います。

教育方法の特例を受ける者は、昼間における履修のほかに、指導教員と相談して履修計画書を提出した場合、授業及び研究指導を夜間に履修することができます。その時間帯は原則として月曜日から金曜日の18時10分から21時20分を予定していますが、この時間帯以外にも授業科目によっては、土曜日又は夏季休業等に履修することができます。

なお、授業時間帯は次のとおり予定しています。

I 限 8 : 45～10 : 15	II 限 10 : 30～12 : 00	III 限 13 : 00～14 : 30
IV 限 14 : 45～16 : 15	V 限 16 : 30～18 : 00	
VI 限 18 : 10～19 : 40	VII 限 19 : 50～21 : 20	

(4) 課程修了の要件

原則として、4年以上在学し、所定の授業科目（含特別研究等）について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文審査及び最終試験に合格することとします。

また、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限（4年）を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し、修了することを申し出たときは、その計画的な履修を認めることがあります。

(5) 指導教員研究内容一覧

別表Ⅱ－2のとおり

別表Ⅰ 授業科目及び単位数

科目区分	授業科目	開設 単位	備考
大学院共通科目	研究倫理	1	
	科学技術と持続可能社会	1	
	地域共生社会特論	1	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1	
	アート・デザイン思考	1	
	英語論文作成Ⅰ	1	
	英語論文作成Ⅱ	1	
	データサイエンス特論	1	
	大学院生のためのキャリア形成	1	
	知的財産法	1	
	学際融合発表演習Ⅰ	1	
	学際融合発表演習Ⅱ	1	
研究科 共通科目	医薬学プロフェッショナル研究論	1	メディア
	医療制度と医療経営特論	1	メディア
	日本語・日本文化	4	留学生
看護科学 プログラム科目	医学連携特論	1	メディア
	看護科学特論	1	メディア
	基礎看護科学分野		
	基礎看護科学特論	2	
	基礎看護科学演習	4	
	臨床・生体機能看護科学分野		
	臨床・生体機能看護科学特論	2	
	臨床・生体機能看護科学演習	4	
	地域ケアシステム看護科学分野		
	地域ケアシステム看護科学特論	2	
	地域ケアシステム看護科学演習	4	
	看護科学特別研究	10	
先端薬科学 プログラム科目	先端薬科学特別実習	1	
	薬学連携特論	1	メディア
	先端薬科学インターンシップ	1	
	先端薬科学特別演習	2	
	先端薬科学特別研究	10	
生命・臨床医学 プログラム科目	先進医学特論	1	
	医学連携特論	1	
	解剖学・神経科学特論	2	
	統合神経科学特論	2	
	分子脳科学特論	2	
	システム機能形態学特論	2	
	病理診断学特論	2	
	分子神経病態学特論	2	
	分子免疫学特論	2	
	微生物学特論	2	
	分子医科薬理学特論	2	
	疫学・健康政策学特論	2	
	公衆衛生学特論	2	

生命・臨床医学 プログラム科目	法医学特論	2	
	医学教育学特論	2	
	システム情動科学特論	2	
	分子神経科学特論	2	
	臨床心理学・認知神経科学特論	2	
	遺伝子発現制御学特論	2	
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	2	
	循環器・腎臓内科学特論	2	
	消化器内科学特論	2	
	炎症性腸疾患内科学特論	2	
	感染症学特論	2	
	皮膚科学特論	2	
	小児発達医学特論	2	
	新生児学特論	2	
	神経精神医学特論	2	
	放射線診断治療学特論	2	
	放射線腫瘍学特論	2	
	循環・呼吸器・総合外科学特論	2	
	呼吸器外科学特論	2	
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	2	
	脳神経外科学特論	2	
	整形外科・運動器病学特論	2	
	産科婦人科学特論	2	
	眼科学特論	2	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	2	
	腎泌尿器科学特論	2	
	麻酔・周術期管理学特論	2	
	総合口腔科学特論	2	
	臨床分子病態検査学特論	2	
	和漢診療学特論	2	
	救急医学特論	2	
	血液内科学特論	2	
	脳神経内科学特論	2	
	臨床腫瘍学特論	2	
	医療安全学特論	2	
	形成再建外科学・美容外科学特論	2	
	計算創薬・数理医学特論	2	
	リハビリテーション医学特論	2	
	先端医療研究開発学特論	2	
	行動生理学特論	2	
	医療統計学特論	2	
	高度医学がん治療学特論Ⅰ	1	メディア
	高度医学がん治療学特論Ⅱ	1	メディア
	高度医学がん治療学特論Ⅲ	1	メディア
	高度医学がん治療学特論Ⅳ	1	メディア
	高度医学がん治療学特論Ⅴ	1	メディア
	高度医学がん治療学特論Ⅵ	1	メディア
	生命・臨床医学特論	6	
	生命・臨床医学特別実習	2	

生命・臨床医学 プログラム科目	生命・臨床医学特別研究	10	
	臨床腫瘍学特論	1	メディア
	多職種連携チーム医療学	1	メディア
	がん外科学特論	1	メディア
	がん緩和医療学特論	1	メディア
	臨床病理学特論	1	メディア
	がん外科学特論	1	メディア
	分子腫瘍学特論	1	メディア
	分子生物学入門	1	※メディア
	臨床統計学特論	1	メディア
	次世代北信オンコロジーセミナー	1	
	がん医療現場の課題特論	1	メディア
	がん予防推進特論	1	メディア
	新規治療法開発特論	1	メディア
			※ がんプロ コース生
臨床薬学 プログラム科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ	1	メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ	1	メディア
	薬学連携特論	1	メディア
	臨床薬学特論	6	
	臨床薬学特別演習	2	
	臨床薬学特別実習	1	
	臨床薬学インターンシップ	1	
	臨床薬学特別研究	10	
	分子腫瘍学特論	1	メディア
	臨床統計学特論	1	メディア
	臨床栄養学特論	1	メディア
	先端がん研究特論	1	メディア
	がん治療におけるゲノム医療演習	1	がん
	地域包括医療でのがん治療演習	0.5	プロ
	チーム・在宅医療演習	0.5	コース
	分子生物学入門	1	生
	腫瘍病理学特論	1	メディア
	がん医療現場の課題特論	1	メディア
	がん予防推進特論	1	メディア
	新規治療法開発特論	1	メディア

※備考欄の「メディア」は富山大学における多様なメディアを高度に利用して行う授業に関する要項第2条で規定するメディア授業科目を示す。

別表Ⅱ－１ 博士後期課程看護科学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
基礎看護科学 教授 西谷 美幸 (令和9年3月退職予定) nisitani@med	・看護実践の現象と理論をつなぐ研究方法を駆使することによる、実践の科学としての看護学の構造の明確化と実践知の創出に関する研究 ・看護実践・看護教育・看護管理に関する、汎用性の高い論理の構築
基礎看護科学 教授 比嘉 勇人 (令和10年3月退職予定) hhiga@med	・量的および質的なアプローチを用いた混合研究法による、メンタルまたはスピリチュアルな次元の看護現象に焦点を当てた研究
基礎看護科学 教授 岩田 実 miwa0717@med	・生活習慣病発症予防、発症後の治療介入に関する患者療養指導も含めた看護実践についての研究
臨床・生体機能看護科学 教授 長谷川ともみ thase@med	・ヒトの生体防御システム、特に感染防御の視点から看護実践に応用できる技術開発と、実験操作の手法を用いた評価に関する研究 ・母子のQOL向上に向けた看護支援モデルの開発に関する研究
臨床・生体機能看護科学 准教授 吉井 美穂 umiho@med	・感染制御に関する実践に対し、実験的手法を用いて客観的に評価する研究 ・感染制御に視点を当てた課題の明確化と、課題解決に向けた看護実践応用に関する研究
地域ケアシステム看護科学 教授 田村 須賀子 (令和9年3月退職予定) tamusuga@med 准教授 中堀 伸枝 nakahori@med	・コミュニティにおける個人と家族、生活共同体に対する看護援助の特質を追究する看護研究 1 個人と家族が対象である家庭訪問における看護過程 2 保健サービスの事業・施策化・健康な地域づくり活動における看護過程

分野名 教員名 連絡先	研究内容
地域ケアシステム看護 科学 教授 堀 悦郎 hori@med	・地域住民の健康を守る看護業務に必要な基本的技術やコミュニケーション技法について、行動科学的、生理学的、神経心理学的及び認知心理学的アプローチにより、それらの作用メカニズム解明をめざす基礎的研究

別表Ⅱ－２ 博士後期課程先端薬科学プログラム及び博士課程臨床薬学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
薬剤学 教授 細谷 健一 (令和8年3月退職 予定) hosoyak@pha	・血液網膜関門の輸送機能解析と網膜への薬物送達 ・血液網膜関門細胞の再構築と細胞間相互作用解析 ・生体内関門組織における生理機能及び輸送機能解明
応用薬理学 教授 久米 利明 tkume@pha	・神経変性疾患, 掻痒, 疼痛および異常感覚の病態形成機構の解明およびその予防・治療薬の探索と開発 ・脳疾患, 掻痒, 疼痛および異常感覚の症状を呈する新規病態モデル動物の作出 ・食品・植物に由来する細胞保護物質の探索
生体認識化学 教授 友廣 岳則 (令和9年3月退職 予定) ttomo@pha	・創薬を効率化するケミカルバイオロジー: 創薬標的を探索する, 可視化する, 利用する, 操作する化学 ・疾患プロテオミクスを促進するケミカルバイオロジー ・合成化学による多成分集積化で挑む創薬ケミカルバイオロジー
がん細胞生物学 教授 櫻井 宏明 hsakurai@pha	・炎症シグナルによるがん悪性化の分子機構の解明 ・がん分子標的の活性調節機構に関する研究 ・悪性黒色腫の進展を制御する細胞内シグナルの研究
薬化学 准教授 千葉 順哉 chiba@pha	・合成化学を基盤とするケミカルバイオロジー - 特に, 人工DNA・タンパク制御・糖鎖認識の3プロジェクト
薬品製造学 教授 松谷 裕二 matsuya@pha	・創薬のための新しい有機合成反応の開発 ・医薬品開発のためのシーズ探索と構造活性相関研究 ・生物活性化合物の合成と構造最適化
分子神経生物学 准教授 田淵 明子 atabuchi@pha	・シナプス-核間の細胞内情報交換と遺伝子発現制御による神経機能調節機構の解明 ・転写因子群, シナプス分子群の機能破綻による神経疾患発症機構の研究, およびそれら分子群を標的とした創薬基盤研究
分子細胞機能学 教授 宗 孝紀 tso@pha	・TRAF5によるサイトカイン制御機構の解明 ・TNFタンパク質による免疫制御法の確立 ・副腎白質ジストロフィーの分子病態の解明

分野名 教員名 連絡先	研究内容
分子合成化学 教授 矢倉 隆之 (令和9年3月退職 予定) yakura@pha	・環境調和型有機合成反応の開発研究 ・生物活性天然物の合成研究 ・生理活性物質の医薬化学的研究
生体界面化学 教授 中野 実 mnakano@pha	・膜脂質のダイナミクスと脂質輸送機構の解明 ・脂質フリップフロップの制御機構の解明 ・アミロイドβと脂質膜の相互作用の解明 ・脂質ナノ粒子の構造・機能評価と製剤学的応用
構造生物学 教授 水口 峰之 mineyuki@pha	タンパク質の立体構造をNMRとX線結晶解析によって決定し機能解析を行うとともに、アミロイド線維等の異常構造について調べ、タンパク質の構造変化と疾患との関連について研究する
薬物生理学 准教授 清水 貴浩 takshimi@pha	・正常細胞とがん細胞におけるイオン輸送タンパク質（ポンプ、トランスポーター、イオンチャネル）の生理学、生化学、薬理学的研究 ・イオン輸送タンパク質の新規機能関連機構の解明 ・イオン輸送タンパク質の新規病態生理機能の解明
医療薬学 教授 藤 秀人 hidetoto@pha	・時間薬物療法の臨床応用に向けた基礎研究と臨床研究 ・患者一人一人に合わせた個別化時間薬物療法の構築 ・病態の日周リズム形成制御因子の同定による新規医薬品の創製 ・経鼻脳薬物送達による中枢疾患治療法の構築および経鼻投与型製剤の開発
病態制御薬理学 教授 笹岡 利安 (令和8年3月退職 予定) tsasaoka@pha	・2型糖尿病の成因解明を基盤とした新たなインスリン抵抗性改善薬の開発 ・中枢性の糖代謝調節に関わる臓器間ネットワーク機構の解明 ・糖尿病合併症の機序の解明と治療法の開発
薬物治療学 教授 新田 淳美 nitta@pha	・精神疾患関連分子の生理機能の解明を目的とする行動薬理、分子生物および細胞生物学的研究 ・依存性薬物の毒性発現メカニズムの解明 ・精神疾患の発症原因を解明するための臨床研究 ・医療薬学研究および薬剤師教育学を基盤とする臨床研究
実践薬学 教授 田口 雅登 taguchi@pha	・個別投与設計を目的としたミニマル臨床試験デザインとデータ解析法の開発 ・小児発達の個体差を考慮した薬物投与計画の最適化に関する研究 ・薬物治療上の諸問題の定式化とその解決に向けた科学的アプローチの実践
臨床薬品作用学 教授 恒枝 宏史 htsuneki@pha	・2型糖尿病および合併症の発症機序の解明と新規治療法の開発 ・脳と臓器連関を介した糖・脂質恒常性の維持機構の解明 ・嗅覚などの感覚器系の機能を活用した糖・脂質代謝の改善法の探索

分野名 教員名 連絡先	研究内容
臨床薬理学 教授 加藤 敦 kato@med	・ Protein-Ligand Docking を活用した希少疾患リソソーム病に対するシャペロン化合物の医薬品設計と有効性の検証 ・ 科学的エビデンスに基づいた機能性化粧品の開発研究 ・ 植物からのイミノ糖の単離精製と医薬品としての応用研究 ・ 臨床経験を加味した和漢薬リバーストランスレーショナルリサーチ
製剤設計学 特命准教授 岡田 康太郎 kokada@pha	・ 核磁気共鳴の緩和現象を利用した製剤の物性評価法の開発
医薬AI・データ科学 特命教授 菅野 亜紀 sugano@pha	・ 分子シミュレーションや AI を用いた解析を基盤とするがん分子標的薬の薬効予測、薬物有害反応の予測 ・ バイオインフォマティクスや分子シミュレーションを用いた感染症関連分子のヒト受容体との結合親和性の解析 ・ <i>In silico</i> ドラッグ・リバーパッシングによる薬物候補解析
細胞生物学 教授 伊東 史子 fitoh@las	・ TGF-β ファミリーシグナルによる血管・リンパ管内皮細胞の機能制御機構の解明 ・ 遺伝子改変マウスを用いた難治性血管疾患の分子病態解析 ・ 老化関連分泌因子 (SASP) としての TGF-β の機能と老化メカニズムの研究
ゲノム機能解析学 教授 田淵 圭章 (令和10年3月退職 予定) ytabu@cts	・ 細胞分化の機械的制御 ・ 細胞ストレス応答の分子メカニズムの解明 ・ 環境化学物質の毒性影響の評価と毒性発現メカニズムの解明
資源科学 教授 庄司 翼 tsubasa@inm	・ ナス科薬用植物の有用アルカロイド・テルペノイド経路の分子制御メカニズムの解明 ・ タバコ属アルカロイド経路の新規制御メカニズムの解明 ・ 天然甘味化合物生合成・蓄積の解析 ・ 生薬の安定供給・生産のための応用研究

分野名 教員名 連絡先	研究内容
天然物創薬学 教授 森田 洋行 hmorita@inm	・天然有機化合物の生合成経路の解明 ・二次代謝酵素の立体構造基盤の確立 ・新規医薬品開発を目指した酵素機能の改変 ・植物,微生物,海洋生物からの生理活性物質の探索 ・アジアにおける未利用薬用資源の探索 ・新規抗栄養飢餓耐性スクリーニング方法を用いた薬用植物資源から天然抗がん剤の探索と開発 ・薬用植物に対する化学研究および生理活性を有する新規二次代謝産物の探索 ・生物活性を有する天然化合物の構造-活性相関性およびがん細胞の生存経路に対する作用機序の研究 ・FT-NMR及びMSを用い、がん細胞に関連するメタボロームバイオマーカーの探索
神経機能学 教授 東田 千尋 chihiro@inm	・神経機能の活性化に関わる神経回路形成機序の研究 ・アルツハイマー病, 脊髄損傷, 頸椎症, 緑内障, 生活不活発病に対する根本的治療を目指した和漢薬研究 ・神経機能を制御する, 中枢神経と末梢臓器のクロストークの分子基盤の研究 ・基礎研究を植物性医薬品開発, 漢方方剤の効能拡大に繋げるための臨床研究 ・ヒトの心身の健康状態に影響する要因分析とバイオマーカーの探索
生体防御学 教授 早川 芳弘 haya@inm	・NK細胞のバイオロジーと免疫応答における役割の解明 ・腫瘍微小環境での自然免疫応答の役割に関する研究 ・和漢薬による免疫応答および免疫疾患の制御に関する研究 ・がん悪性化・転移阻害をターゲットとした研究
複雑系解析学 教授 中川 嘉 ynaka@inm	・糖・脂質代謝を制御する転写因子の機能解析 ・細胞間, 組織間連関による栄養代謝調節の解明 ・和漢薬による生活習慣病改善の分子メカニズムの解明
未病学 教授 小泉 桂一 kkoizumi@inm	・生体情報のゆらぎの理解と医療応用 ・漢方薬から発見した免疫活性化ナノ粒子、および免疫活性化核酸断片の機能解明とその医療応用

※博士後期課程先端薬科学プログラム及び博士課程臨床薬学プログラムには、上表のほかに次の研究室があります。

植物機能科学, 数理医薬評価学

別表Ⅱ－3 博士課程生命・臨床医学プログラム 指導教員研究内容一覧

分野名 教員名 連絡先	研究内容
解剖学・神経科学 (解剖学) 教授 一條 裕之 (令和11年3月退職予定) ichijo@med	in vivo研究とin silico研究の利点と特異性を利用して、動物の行動に関わる神経回路の構造・機能と進化を研究します。 ・ストレスなどの忌避的な環境をコードする手綱核の構造と機能を前後と左右のトポグラフィーや成熟性を手がかりにマウスにおいて探索します。 ・ストレスに反応する神経回路の個体差とその機能的な意義をマウスにおいて探索します。 ・individual-based modelを利用して、生得的な動物行動が進化する機構を研究します。
分子脳科学(生化学) 教授 井ノ口 馨 inokuchi@med	分子生物学・生化学・細胞生物学・組織化学・電気生理学・行動薬理学・光遺伝学・脳内ライブイメージングなどの手法を駆使して、ほ乳類の記憶痕跡ならびに潜在意識下のアイドリング脳活動の機能を包括的に明らかにすることを目指している ・記憶痕跡の実体に関する研究 ・記憶痕跡の動態に関する研究 ・アイドリング脳の機能に関する研究
システム機能形態学 教授 伊藤 哲史 itot@med	知覚、特に聴覚系の脳内符号化や認知のメカニズムの詳細を機能と構造の両面から解明するべく、以下のような様々な実験アプローチを行う。 (1) 神経生理学技術と神経解剖学技術を組み合わせることで、特定の機能を有する神経回路の詳細な構造を明らかにする。 (2) 神経回路を構成する個々の素子たる神経細胞の機能的特性、形態学的特徴、さらに分子発現を解明することで、神経回路を構成する個々の神経細胞種を機能的に位置づける。 (3) 知覚行動で顕著な特殊化を示す非モデル動物の神経回路を解明し、モデル動物との比較を行うことで神経回路の機能構築の詳細とその進化を明らかにする。 (4) 神経回路の特定要素の活動を操作することで神経回路の活動様式がどのように変化し、それによって行動がどのように変容するのか明らかにする。
病理診断学(病理学) 教授 平林 健一 hiraken@med	・胆膵疾患の臨床病理学的研究・分子学的研究 ・腫瘍性疾患の臨床病理学的研究・分子学的研究 ・炎症性疾患の臨床病理学的研究・分子学的研究 ・microRNAを対象とした膵腫瘍の新規バイオマーカーや治療法の開発
分子神経病態学 (病理学) 教授 高田 尚良 ktakata@med	血液腫瘍を中心とした悪性腫瘍の分子病理学的研究を行っている。特に以下の項目を中心に行う。 (1) リンパ腫患者検体を用いた臨床病理と遺伝子異常との統合解析による新規バイオマーカー探索 (2) 血液腫瘍における <i>in vitro</i> , <i>in vivo</i> モデルを用いた治療標的探索 (3) 腫瘍抗原を標的とした治療法開発 (4) FACS, 遺伝子解析、病理形態像の統合による血液腫瘍診断法の開発

分野名 教員名 連絡先	研究内容
分子免疫学 教授 小林 栄治 ekoba@med	・ B 細胞受容体（抗体）や T 細胞受容体のシングルセル解析 ・ 自己抗体を用いた自己免疫疾患メカニズムの解明 ・ 腫瘍特異的 T 細胞受容体(TCR)を用いた TCR-T 療法の開発 ・ キメラ抗原受容体（Chimeric antigen receptor: CAR）を用いたがん免疫療法の開発新規 T 細胞抗原同定法の開発
微生物学 教授 森永 芳智 morinaga@med	・ 薬剤耐性菌・病原細菌のコロナイゼーションに対する細菌叢の役割の解明 ・ 細菌の薬剤耐性遺伝子伝播の中での細菌叢が果たす役割の解明 ・ 薬剤耐性菌が宿主間を超えて拡散する背景にある細菌叢とのかかわりの解明 ・ ウイルス感染症病態に与える細菌叢機能の解明 ・ 抗菌薬の適切な治療法に結びつく常在細菌叢保護の理解の探求
分子医科薬理学 （薬理学） 教授 中川 崇 nakagawa@med	・ NAD代謝による老化制御の基礎メカニズムに関する研究 ・ 疾患モデルマウスを用いた，認知症，糖尿病やがんなどの老化関連疾患に関する研究 ・ NAD代謝を標的とした抗老化薬・治療法の開発 ・ 質量分析計（LC/MS, GC/MS）を用いたメタボロミクスによる和漢薬の薬理作用の解明
疫学・健康政策学 教授 関根 道和 sekine@med	疫学・健康政策学講座は，疫学研究にもとづく健康政策への貢献をミッションとした講座である。ミッション達成のための疫学研究を実施している。日本公務員研究は，地方公務員約5千名を対象とした社会経済的要因や心理社会的ストレス，ワーク・ライフ・バランスと健康に関する縦断研究で，ロンドン大学ユニバーシティカレッジの英国公務員研究，ヘルシンキ大学のフィンランド公務員研究との国際共同研究である。富山出生コホート研究は，平成元年度生まれの約1万人を対象とした縦断研究である。また，文部科学省スーパー食育スクール事業では，約2千名の小学生を対象とした研究である。両研究では，小児期からの総合的な健康づくりのためのエビデンスを集積している。富山認知症研究は，65歳以上の高齢者約千人を対象とした高齢者疫学研究である。 大学院生は，講座が行っている調査研究に参加し，研究の計画，実施，分析，論文執筆までの一連の研究作法を学ぶ。現在の主な研究テーマは下記の通りである。 （１）心理社会的ストレスやワーク・ライフ・バランス，生活習慣，性格傾向と健康に関する国際比較研究 （２）社会経済的要因による健康格差に関する国際比較研究 （３）小児期からの生活習慣病予防に関する研究 （４）認知症の予防医学的研究
法医学 教授 西田 尚樹 nishida@med	・ 心臓血管疾患の病理学，分子生物学 ・ 乳幼児突然死の病理学，分子生物学 ・ 神経病理学，神経疾患の分子生物学 ・ 自殺，精神疾患の病理学，分子生物学

分野名 教員名 連絡先	研究内容
医学教育学 教授 高村 昭輝 akiteru@med	主に医療者教育に焦点を当てた研究をする。具体的には医師，看護師，薬剤師を始めとする医療者の卒前教育，卒後教育，生涯教育，地域医療教育（患者教育等も含む）などの目標，方略，評価に関する研究を行う。その他，プライマリ・ケアに関する疫学研究も可能である。 医療者教育における量的研究（記述統計など），質的研究（テーマ分析や内容分析など），テキストマイニングなどを用いて教育効果などを探索する。
システム情動科学 教授 西丸 広史 nishimar@med	・ 大脳辺縁系における情動，学習・記憶及び行動発現の神経機構 ・ 社会的認知機能ならびに非言語的コミュニケーションの神経機構 ・ 中枢性自律神経機能調節機構 ・ 感覚情報の中枢性認知機構 ・ 情動発現における運動-感覚統合メカニズムの解明 ・ 報酬価値に基づく行動決定の神経機構 ・ AIによる動物の行動評価法の開発と精神・神経疾患の研究への応用
分子神経科学 准教授 吉田 知之 toyoshid@med	・ 新たな遺伝子操作マウスの作製と認知・情動・社会性の分子機構解析研究 ・ マウス脳内分子イメージング法の開発と解析研究 ・ 免疫系による脳機能修飾機構の分子的解析研究 ・ 中枢シナプス形成の分子機構に関する研究 ・ 神経発達障害の発病機構に関する研究
臨床心理学・ 認知神経科学 教授 袴田 優子 hakamata@med	うつ病や不安障害などのストレス関連精神疾患を抱える患者やその発症リスクを有する健常者にみとめられる認知処理上の問題の神経生物学的な発生機序について明らかにするとともに，こうした問題の軽減・改善に有効な心理学的予防・治療法の開発を行っている。認知処理上の問題はしばしば認知バイアスと呼ばれるが，このうち主に注意や記憶（符号化や固定化，検索を含む）に関するものを扱う。 （１） 不安や抑うつが生起に関与する認知処理上の偏りに関する研究 a) その認知科学／実験心理学的手法による測定方法論 b) その神経生物学的発生機序（神経画像，DNA，内分泌・免疫炎症系指標を含む） c) そのストレスや精神症状への影響 （２） 認知の偏りを標的にした有効な介入法に関する研究 a) 新規介入法の開発とその効果評価 b) 認知行動療法等の既存アプローチの最適化 （３） 有効な介入法の社会的普及に向けた研究 a) 要支援者の需要・障壁（社会学的・質的研究を含む） b) 普及手段の開発
遺伝子発現制御学 准教授 甲斐田 大輔 kaida@med	・ スプライシング異常がmRNAの安定性に与える影響の解析 ・ スプライシング異常が転写伸長に与える影響の解析 ・ スプライシング異常により蓄積したpre-mRNAから翻訳されたトランケート型タンパク質の機能解析 ・ 老化関連疾患治療薬の作用機序の解明 ・ 老化関連疾患治療薬の候補化合物のスクリーニング

分野名 教員名 連絡先	研究内容
代謝・免疫・呼吸器病学（内科学） 教授 加藤 将 ktmasaru@med	・ 2 型糖尿病・メタボリックシンドロームの病態の解明と治療法・予防法の開発 ・ 腸内細菌叢が糖代謝に与える影響についての研究 ・ 乳癌の発症や進展の病態に関する研究 ・ 2 型糖尿病の遺伝的素因に基づいた医療(オーダーメイド医療)の開発 ・ リウマチ・膠原病の早期発見・早期治療薬の開発に関する研究 ・ ドラッグフリー寛解を目指した関節リウマチの治療法の確立 ・ 肺癌における腫瘍微小環境が分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬の作用に与える影響の解明 ・ びまん性肺疾患における免疫細胞が臨床経過に及ぼす影響に関する研究
循環器・腎臓内科学（内科学） 教授 絹川 弘一郎 （令和11年 3 月退職予定） kinugawa@med	・ 種々のバイオマーカーを用いた心不全に対する薬物治療の最適化プロトコルの確立 ・ 非侵襲的在宅テレモニタリングシステムの開発と心不全による再入院予防の試み ・ 心不全に対する非薬物治療による交感神経活動抑制の機序解明 ・ 心肺機能から分類する新しい心不全のステージング ・ 心筋特異的遺伝子発現パターンを改変することによる心不全治療の可能性 ・ β 受容体と心筋リモデリング可塑性の関連 ・ 腎集合管のviabilityを規定する因子の同定 ・ 心不全の自律神経機能異常に対する腎除神経の影響 ・ 心房細動発症機序の解明
消化器内科学（内科学） 教授 安田 一郎 yasudaic@med	・ 消化器疾患における内視鏡を用いた新規診断法の開発 ・ 消化器疾患に対する低侵襲治療法の開発 ・ 便秘症における腸の感受性低下に関する分子機構の検討 ・ 消化管内容物を介した小腸上皮透過性亢進に関する研究 ・ 肝疾患の免疫動態の解析と治療への応用 ・ 新規HBVワクチン開発を目指したHBs抗原応答に関する研究 ・ 消化器癌化学療法の治療効果と毒性に關与する腸内細菌叢の同定とその機序の解明 ・ 炎症発がんにおけるDNAメチル化異常の検出との意義の解明
炎症性腸疾患（内科学） 特命教授 渡邊 憲治 kenjiw@med	炎症性腸疾患診療の最適化に関する検討
感染症学 教授 山本 善裕 yamamoto@med	・ 分子生物学的手法を用いたMRSAサーベイランスの確立 ・ 慢性緑膿菌感染症に対する薬剤選択因子の探索 ・ 非結核性抗酸菌症の発症および予後因子の解明 ・ 深在性真菌症の薬剤耐性機序に関する研究 ・ HIV感染における遺伝子治療法への挑戦

分野名 教員名 連絡先	研究内容
小児発達医学（小児科学） 教授 今井 千速 chihaya@med	小児・思春期における難治性疾患の新しい診断法や治療法の開発に取り組んでいる。臨床現場での問題点の解決を目指した基礎研究や臨床研究を行っている。小児科学は幅広い疾患を取り扱っており、血液・腫瘍領域、免疫・アレルギー領域、循環器領域、新生児領域、救急・集中治療領域、腎・膠原病領域、小児神経領域における基礎研究および臨床研究が行われている。 例を挙げると、血液・腫瘍学では、がん・白血病に対する遺伝子改変免疫細胞療法の新規開発に取り組んでおり、CAR-T細胞療法の治療効果の改善を目指した新たなキメラ抗原受容体遺伝子の開発や、ヒトNK細胞の遺伝子改変による新たな細胞治療の開発に取り組んでいる。
新生児学 教授 吉田 丈俊 ytake@med	・ Bayley発達検査による早産児の発達を評価する ・ 頭蓋変形をきたした児の長期予後を調査する
神経精神医学 教授 高橋 努 tsutomu@med	・ 統合失調症の脳画像による病態解明と客観的診断への応用 ・ 統合失調症の神経生理学的研究 ・ 統合失調症の認知障害を改善する薬物療法の開発 ・ 統合失調症の発症機序解明と発症予防 ・ 思春期・青年期の発達と人格形成および社会性の脳内機構 ・ 認知症の早期診断と有効な早期介入
放射線腫瘍学 教授 齋藤 淳一 junsaito@med	・ 放射線などの物理化学的な刺激によるアポトーシスの分子機構、増感と防護 ・ がん温熱療法の基礎的研究、Ca²⁺代謝修飾による温熱増感 ・ 放射線・超音波による活性酸素生成とDNA損傷 ・ 超音波を利用した遺伝子導入と遺伝発現制御 ・ 環境化学物質によるアポトーシス
循環・呼吸器・総合外科学（外科学） 教授 芳村 直樹 （令和10年3月退職予定） ynaoki@med	・ 形態からみた不整脈の機序の解明 ・ 動脈硬化に関する外科的研究 ・ 冠動脈疾患の外科治療に関する研究 ・ 心不全の循環動態と補助に関する研究 ・ 先天性心疾患の外科治療に関する研究

分野名 教員名 連絡先	研究内容
循環・呼吸器・総合外科学（外科学） 教授 土谷 智史 tsuchiya@med	私たちは移植再生研究を通じて、国内外の研究施設とネットワークを構築し、人的交流を促し、共同研究や研究留学を推進している。（共同研究機関；Yale大学医工学教室，Cincinnati大学，理化学研究所，量子生命科学研究所，長崎大学，名古屋大学，鹿児島大学 臓器置換・異種移植外科学） 以下，主な研究内容を示す。（参照；https://www.organengineering.com/） ・脱細胞化組織骨格を利用した臓器再生研究 ・再生臓器を利用した疾患モデルの開発 ・肺オルガノイドを利用した疾患モデルの開発 ・肺移植モデルにおける細胞治療による免疫寛容の誘導 ～免疫抑制性T細胞（Regulatory T細胞; Treg細胞）による細胞治療 ～間葉系幹細胞による細胞治療 ・肺粘液腺癌の発生と制御の研究 ・人工知能を使用した術中画像による胸膜浸潤の予測
消化器・腫瘍・総合外科学（外科学） 教授 藤井 努 fjt@med	・膵癌などの難治消化器癌の進展における臨床病理学的研究 ・ヒト腫瘍における分子生物学的研究 ・手術侵襲における生体反応とその制御の研究 ・消化器癌・内分泌腫瘍の治療に関する臨床的研究 ・消化器癌のバイオマーカーの探索，個別化医療の開発 ・新規手術術式の開発
整形外科・運動器病学（整形外科） 教授 川口 善治 （令和10年3月退職予定） zenji@med	・軟骨分化メカニズムに関する研究 ・椎間板および関節軟骨変性の病態と，修復再生に関する研究 ・脊椎靱帯骨化の臨床ならびに遺伝学的研究 ・脊柱靱帯骨化の起源に関する研究 ・関節リウマチの関節破壊メカニズムと治療に関する研究 ・骨軟部腫瘍の発生と治療に関する研究 ・新たな手術法の開発とそのアウトカム研究 ・ロボット手術の有効性と安全性の研究
産科婦人科学 教授 中島 彰俊 akinaka@med	・生殖免疫・分子生物学についての基礎的並びに臨床的研究 ・胎盤形成とオートファジーについての研究 ・絨毛細胞の増殖・分化の分子機構の解明研究 ・子宮頸がんにおけるHPV感染とオートファジーの役割について ・子宮体癌MSI-highに関する免疫学的特徴の理解と臨床応用 ・早産，妊娠高血圧症候群，流産の臨床診断・治療に関する研究 ・卵胞発育におけるオートファジー関連分子の役割の解明
眼科学 教授 林 篤志 （令和11年3月退職予定） ahayashi@med	・眼内新生血管に対する新たな治療薬とその投与方法に関する研究 ・乾燥羊膜を用いた新たな眼疾患治療モデルの開発 ・眼感染症における病因の迅速診断と治療の研究 ・アイトラッカーを用いた眼球運動の定量的解析と疾患との関連 ・眼腫瘍における遺伝子発現とバイオマーカーの同定 ・IPS由来細胞色素上皮細胞を用いた移植へ向けた研究

分野名 教員名 連絡先	研究内容
耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授 森田 由香 yukam@med	耳鼻咽喉科頭頸部外科学は人らしく生きるために必要な感覚器と生命維持に重要な呼吸・嚥下・睡眠に関わる疾患を取り扱っている。また頭頸部領域に発生するすべての悪性腫瘍に対してその機能温存も考慮しながらの治療を行う必要がある。当講座では、きこえ、バランスを中心とした感覚器と脳高次機能の関係、難治性中耳疾患の診断・治療方法の確立、QOLを重視した鼻副鼻腔疾患の手術治療の開発などを行っている。また、頭頸部癌治療に関しては、機能温存を目指した手術方法の開発の他、適切な化学療法を選択に関するバイオマーカーの探索など臨床に直結した研究を行っている。
腎泌尿器科学 (泌尿器科学) 教授 北村 寛 hkitamur@med	・泌尿器癌のバイオマーカー研究: 診断, 個別化医療および治療標的に有用なバイオマーカーの探究 ・泌尿器癌に対する免疫療法の開発: エピトープ特異的がんワクチンのトランスレーショナル・リサーチ ・泌尿器癌における癌幹細胞研究 ・前立腺癌における増殖因子の解析と治療開発 ・造精機能障害の原因解明に関するin vitroおよびin vivo研究 ・血管内皮細胞に着目した性機能障害に対する新規治療の開発 ・腎移植後の拒絶反応におけるHeat Shock Proteinの役割と新規免疫抑制療法の確立を目指した研究
麻酔科学 教授 高澤 知規 takazawt@med	当講座は周術期の患者の安全を担保するため以下のような研究を行っている。 1. 周術期アナフィラキシーの研究 麻酔薬やモニタリング機器の進歩, 手術の低侵襲化によって手術中の偶発症リスクは減少しつつある。そのなかで近年は生命を脅かす可能性のある偶発症としてアナフィラキシーが注目されている。我々は周術期アナフィラキシーの疫学研究や精度の高いアナフィラキシーの原因薬の開発に取り組んでいる。 2. 機械学習を用いたバイタル変動予測モデルの開発 術中や術後に患者に装着しているバイタルサインモニターによって大量の生体情報が入手できるようになった。我々は機械学習を用いてバイタルサインの変動予測モデルを開発中である。 3. 麻酔のメカニズム研究と理想的な麻酔薬の開発 近年の研究によって麻酔薬のターゲットとなる分子基盤の解明は進んでいるが, 神経ネットワークに与える麻酔薬の影響は不明な点が多い。我々は連動する複数のニューロンによる電気活動を捉えることが可能な手法を開発し, 理想的な麻酔薬の開発を進めている。

分野名 教員名 連絡先	研究内容
総合口腔科学 教授 山田 慎一 shinshin@med	口腔には多くの機能があり、ひとが生きていくために重要な役割を果たしている。また、口腔細菌や口腔機能と多くの疾患との関連も明らかになってきており、口腔科学に重要性が認識されている。しかしながら、科学的根拠に乏しい一面もあり、健康余命の延伸に寄与する研究を行い、科学的根拠の構築を図っています。 ・ AI を用いた口腔疾患の病理診断および画像診断に関する研究 ・ ヒト口腔扁平上皮癌細胞株を用いた抗癌薬感受性に関する基礎研究 ・ ヒト口腔扁平上皮癌細胞を用いた癌の増殖・浸潤機序に関する基礎研究 ・ マウス口腔扁平上皮癌モデルを用いた免疫学的解析 ・ ヒト線維芽細胞を用いた口腔粘膜炎予防に関する研究 ・ 低侵襲な口腔癌治療の開発に関する研究 ・ 口腔細菌が全身疾患に及ぼす影響に関する研究
臨床分子病態検査学 (臨床検査医学) 教授 仁井見 英樹 hiniimi@med	・ 疾患の分子病態解析 ・ 感染症起炎菌迅速同定 & 定量検査法 (Tm mapping法) の開発 ・ ATP蛍光発光検出法を基盤とする迅速薬剤感受性試験 (AST) の開発 ・ 新たな臨床検査技術の開発
和漢診療学 教授 貝沼 茂三郎 kainuma@med	・ 加齢関連疾患に対する八味地黄丸の作用機序の解明 ・ 漢方医学的診断の客観的評価
救急医学 教授 土井 智章 doit@med	救急医学の「救命する」という概念は、医の原点である。そのため、救急医学は、すべての医療従事者が学ぶべき領域と言える。その標準的といえる領域の普遍的な内容を教育することは重要な課題の一つである。 また救急医学は急速に進展する生体侵襲との戦いであり、救命のためには、時間的制約や少ない情報量の中でいかにダメージコントロール治療や根本治療を行えるかが課題である。生体侵襲学が救急医学では重要であり、生体侵襲に対する病態生理の解析、治療法の確立は救急医学の研究対象であり、それらを解析することも目標の一つである。 指導内容 敗血症に対する研究 (血小板の細胞内情報伝達経路の解析, 血管内皮障害の解析) 外傷に対する研究 (臨床研究と基礎研究のトランスレーショナルリサーチ) 急性血液浄化療法に対する研究 (電子顕微鏡を用いた研究) 高気圧酸素療法に対する研究 (基礎研究)
血液内科学 (内科学) 教授 佐藤 勉 tsutomus@med	・ 多発性骨髄腫に対する新規治療薬の開発 ・ T細胞リンパ腫に対する分子標的療法の探索 ・ 悪性リンパ腫治療に伴う骨密度低下の予防 ・ 骨粗鬆症が造血幹細胞に及ぼす影響

分野名 教員名 連絡先	研究内容
腫瘍内科学・緩和医療学 教授 林 龍二 hsayaka@med	・がんゲノム医療の実臨床 ・免疫チェックポイント阻害薬効果と腸内細菌 ・高齢がん患者の疫学調査 ・一般人・医療人のがんに対する意識 ・担がん動物モデルを用いたがん免疫の研究 ・がん代謝の研究 ・がん細胞生物学と標的治療 ・診療録を使用した臨床研究 ・データベースを利用した統計解析 ・モデル動物作成, 生化学・免疫学的解析法 ・緩和医療 漢方薬と支持療法
形成再建外科学・美容外科学 教授 佐武 利彦 toshi@med	・穿通枝皮弁の血管解剖の解析 ・脂肪幹細胞・培養脂肪幹細胞を用いた再建 ・再生医療によるサルコペニアの予防と治療 ・知覚神経付き皮弁によるCRPS治療法開発 ・Robotic Microsurgeryの各種再建術への応用 ・リンパ浮腫の病態と治療に関する研究
計算創薬・数理医学 教授 高岡 裕 ytakaoka@med	計算創薬・数理医学分野では, 実験物理学に対する理論物理学の立ち位置としての理論医学の構築を目指しているが, 複雑系である人体を物理や化学などの数式化可能なハードサイエンスとして記述することは簡単ではない。そこで我々は, 人体の数理モデルに基づくアプローチを部分的に可能にすべく, 分子シミュレーション解析結果を用いた数理モデルにより, 疾患治療の未来予測の実現を目指している。これは, 経験と結果を重視する医学・医療体系を, 今後は予測可能な論理の積み上げの科学へと進化させる挑戦であり, 医学研究を『検証』から『予測』へとパラダイムシフトさせることが究極の目標である。但し, 我々は数学的な精緻さは目指さず, 現実への応用が不可能では無意味との考えのもとで研究を進めている。 加えて, 漢方（鍼灸）研究や機械学習と自然言語処理を利用した研究や, 地域医療政策や病院機能の向上や医療経営, といった社会医学的な研究テーマも取り扱う。 ・分子シミュレーションと数理モデルによる薬物有害反応の予測 ・分子シミュレーションと数理モデルによるがん分子標的薬の薬効予測 ・核酸医薬の設計と薬効評価 ・ドラッグ・リパーポジングの計算創薬への応用 ・分子シミュレーション解析によるアミノ酸置換を生じる遺伝子変異で生じる病態の解明 ・漢方（鍼灸）の治療効果の分子メカニズムの研究 ・機械学習や自然言語処理などのAI技術の応用による病院機能向上の研究 ・人口動態と地域医療の将来の研究

分野名 教員名 連絡先	研究内容
リハビリテーション医学 教授 服部 憲明 hattorin@med	リハビリテーション医学は、基礎医学や神経科学、工学などの分野とのトランスレーショナル・リサーチが最も活発に行われている医学分野の一つである。 我々は、最新の技術を取り入れ、革新的なリハビリテーション医療の創出を目指している。 具体的な研究テーマの例を以下に挙げるが、これらに限定せず、学生と対話し、柔軟に研究テーマを決めていく。 ・新しい計測機器、解析法を用いたリハビリテーション診療の客観的な指標の創出 ・機能回復を促進させるニューロモデュレーションの手法の開発 ・多様な疾患のactivity of daily living (ADL), quality of life (QOL)の向上を目指したリハビリテーション治療法の開発 ・フレイルやサルコペニア、栄養不良の効果的なリハビリテーション治療法の開発
医療統計学 教授 米本 直裕 yonemoto@med	臨床研究や疫学研究の方法論、医療や健康に関するデータの統計解析の理論や手法の開発、その応用に関する研究 ・因果推論における外装可能性と一般可能性、標的試験の模倣に関する研究 ・臨床試験やリアルワールドデータ、多様なデータソースを活用するアプローチ、デザインや統計解析に関する研究 ・ジョイントモデル、複合的な統計モデルに関する研究 ・系統的レビュー、メタアナリシスに関する研究 ・医療経済・アウトカムリサーチの解析に関する研究 ・ベイズ統計学、機械学習、自然言語処理の応用に関する研究
行動生理学 教授 高雄 啓三 takao@cts	・記憶・学習、情動、認知などの精神機能の生理的基盤の解明 ・行動解析による精神・神経疾患モデルマウスの探索と評価 ・モデルマウスを用いた精神・神経疾患の病態解明と治療法の開発 ・情報工学的手法による精神・神経疾患の病態解明 ・生殖発生工学による新たな遺伝子改変マウスの作製 ・新しい生殖発生工学技術の開発

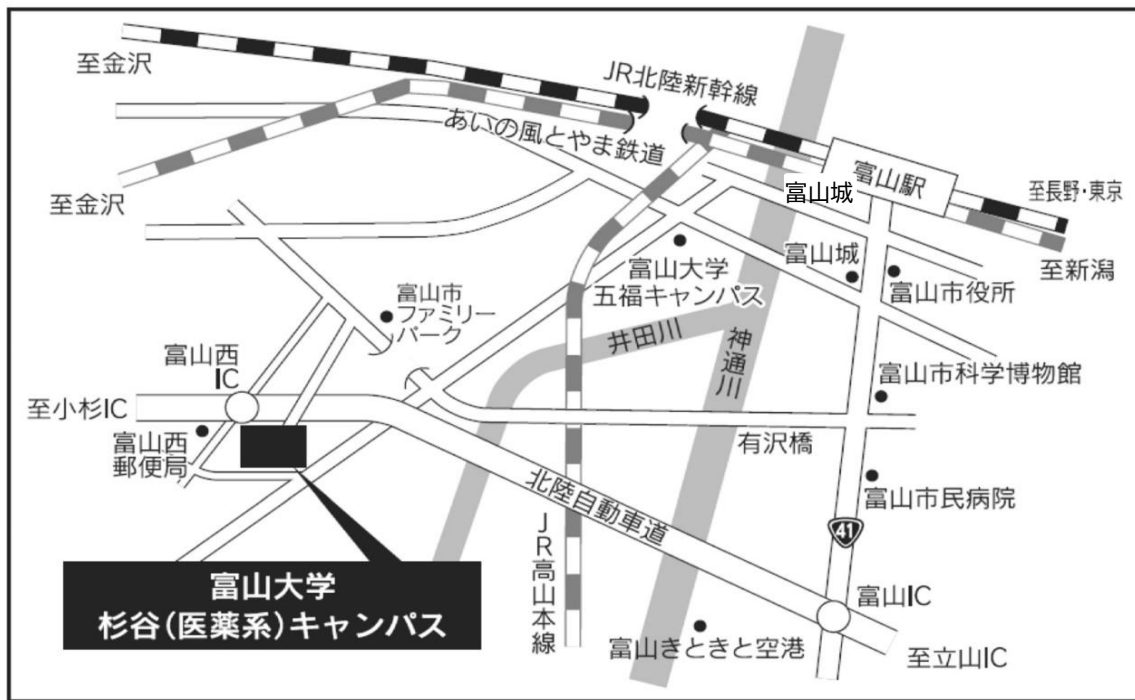
※生命・臨床医学プログラムには、上表のほかに次の研究室があります。

統合神経科学（生理学）、公衆衛生学、皮膚科学、放射線診断治療学（放射線医学）、脳神経外科学、脳神経内科学、先端医療研究開発学

※別表Ⅱ－１～３に連絡先として本学メールアドレスの一部を記載しました。指導を希望する教員との事前相談にご利用ください。なお、利用の際には記載のアドレスの後に”.u-toyama.ac.jp”を追加してください。

例) abc@def → abc@def.u-toyama.ac.jp

富山大学 キャンパス位置図



富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス

富山大学 杉谷(医薬系)キャンパスへの交通機関

◎ バス

・富山駅南口のバス停留所(4番のりば)から「富大附属病院循環」に乗車、「富山大学附属病院」停留所にて下車(所要時間約30分)

◎ その他

- ・富山きときと空港より車で約25分
- ・北陸自動車道「富山西IC」より車で約5分

学生募集要項，障害を有する入学志願者の事前相談

及び入学試験に関する問い合わせ先

* 問い合わせは，やむを得ない場合を除き，志願者本人が行ってください。

〒930-0194 富山市杉谷2630番地

富山大学 杉谷(医薬系)キャンパス 杉谷地区事務部学務課(入試担当)

電話 (076) 434-7658